

さぬき市学校再編計画

平成 20 年 6 月

さぬき市教育委員会

目 次

はじめに	．．．．	1
1 計画策定の考え方	．．．．	2
(1) 計画策定の背景		
(2) 学校再編の必要性		
(3) 計画策定に当たっての基本的な考え方		
2 学校の適正規模の検討	．．．．	5
3 学校施設の現状と課題	．．．．	8
4 再編計画策定の経過	．．．．	9
5 小中学校の再編実施計画	．．．．	10
(1) 基本事項		
(2) 計画期間		
(3) 小学校の再編実施計画		
(4) 中学校の再編実施計画		
6 幼稚園再編の方向性について	．．．．	15

はじめに

学校は、一定の教育目的に従い、教師が児童・生徒に計画的・組織的・系統的に教育を施す場所である。したがって、その教育成果は、学校の種類により、またその目的により、それぞれの評価基準で図られるべきであるが、特に義務教育（公教育）の場にあっては、多様な児童・生徒が学習仲間として存在し、日々の学習活動や仲間たちとのかかわりの中で、お互いに切磋琢磨しながら成長していくことが望まれる。

しかし、昨今の少子化に伴い、さぬき市内の児童・生徒数が急激に減少し、多くの幼稚園・小学校・中学校の小規模校化が顕著になってきた。それらの学校はそれぞれの地域の歴史や文化・伝統とともに地域の人々に支えられて今日に至っており、今も地域の核であり、財産であり、小規模校ならではの工夫や努力を重ね、特色ある教育成果を挙げている。それでも、今後のさぬき市全体の児童・生徒の学習環境の整備・充実、学校運営上の問題改善等のためには、どうしても「学校再編（統合）」を行う必要が生じてきた。

さぬき市教育委員会では、平成 18 年度に学校再編計画策定に着手し、「学校再編計画（素案）」をまとめた。この素案を基に、学識経験者・学校関係者・保護者代表・地域代表・一般公募者からなる「さぬき市学校再編計画検討委員会」を設置し、学校の適正規模や適正配置等についての検討を依頼した。

平成 19 年 3 月に同検討委員会からの審議結果が報告され、市教育委員会はその案について再度審議した後、同年 4 月に「さぬき市学校再編計画（案）」を公表した。その後、学校再編の実施にあたり、より多くの市民の意見を参考にすべく、同年 10 月、市内 6 地区（各中学校区）に、自治会代表者・保護者代表者を中心とした「さぬき市学校再編計画地域協議会」を設置した。同時に各地区の意見集約のため、各地域協議会の代表者等からなる「さぬき市学校再編計画地域連絡協議会」を設け、「学校再編計画（案）」についての各地域の忌憚のない意見・要望等を伺った。

そして、平成 20 年 3 月に「さぬき市学校再編計画地域連絡協議会」からの報告を受け、それを踏まえて本計画を策定した。

学校再編や学校施設整備の本旨は、さぬき市の将来を担う子どもたちのよりよい学習環境を準備することにある。市の財政状況が厳しいときではあるが、今後 10 年を目途に、順次、着実に学校再編が進められるよう（実施順・遠距離通学手段等の見直しなども行いながら）、市教育委員会として全力で取り組んでいくものである。

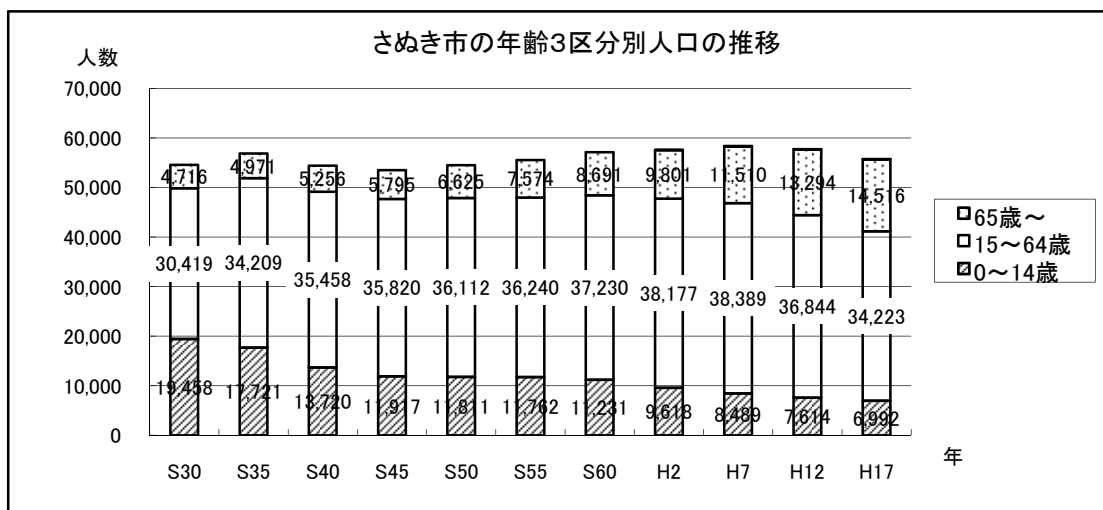
1 計画策定の考え方

(1) 計画策定の背景

① 少子高齢化の進展

わが国の人口は、平成16年（2004年）12月にピークを迎えたと推定され、今後は減少に向かうものと予測されている。また、出生率の低下や晩婚化などにより年少人口（15歳未満の人口）が徐々に減り続け、本格的な少子高齢社会を迎えるに至った。さぬき市においても、年少人口の減少傾向が続き、国勢調査による年少人口の数及び総人口に占める割合は、昭和30年（1955年）に19,458人、35.6%であったものが、平成17年（2005年）には6,992人、12.5%にまで減少しており、今後においても年少人口の増加は見込めないものと予想されている。（図表1）

図表1



国勢調査

② 児童数等の減少と学校の小規模化

少子化の進行は、とりもなおさず児童数等の減少やそれに伴う学校の小規模化、学校規模の格差の拡大につながっている。

③ 学校施設の老朽化等

市内の学校施設は、そのほとんどが昭和30年代から50年代前半にかけて木造から鉄筋コンクリート造りに改築され、その後も必要に応じた増改築が行われているが、建築後相当の年数が経過し老朽化が進んでいる。

④ 今日の教育課題への対応

国際化や情報化の進展、環境問題の深刻化、産業構造の変化、成熟社会における価値観の多様化といった社会経済情勢の大きな変化の中、さぬき市のまちづくりの基本理念である「自立する都市」を目指し、魅力と活力に満ちた郷土を創造するためには、将来を担う人づくりがきわめて重要となっている。

⑤ 行財政を取り巻く環境の変化

景気の低迷による税収の落ち込み、地方交付税等の大幅な削減に加えて、義務的経費や市債残高の増加などにより、市財政は危機的な状況にある。このため、教育分野においても、これまで以上に徹底した施策の選択と集中が求められている。

(2) 学校再編の必要性

① 児童・生徒数の減少傾向（推移）と学校力の確保

ア 集団の規模が小さくなると、子どもの多様な選択の幅が小さくなったり、切磋琢磨する機会が失われたりするなど、集団教育の良さが生かされにくくなる。

イ 教職員の配置数が減り、校務運営や子どもの指導体制にも難しさが生じるなど、学校運営に影響を及ぼすことになる。

ウ 学校の活力を維持し、子どもたちが大勢の中でいきいきとした学校生活を送れるようにするために、適正な学校規模を実現することが必要である。

エ 児童・生徒数の減少は、学校環境に大きく影響し、運営や管理面の低下も懸念される。

② 学校施設等の整備

ア 市内の学校の多くは、昭和30年代中ごろから児童・生徒数の急増に伴う教室の不足や木造建築の老朽化が進んだことから、増改築による整備を進めてきたが、それらの校舎も老朽化が進み、地震などの災害に備えるために、新たな補強対策が求められている。

イ 情報化時代にあって情報機器・校内LANや空調システム等環境が

未整備なところがある。

③ 教育環境の充実

ア 子どもの学力低下への懸念、いじめや不登校、暴力行為などの問題行動、規範意識や社会性の低下、家庭や地域の教育力の低下など、教育に関する様々な課題も生じており、これらに適切に対応する必要がある。

イ 確かな学力と豊かな心をはぐくむ教育を推進するため、創意工夫を凝らした特色ある教育活動など、学校教育における新しい取組に期待が寄せられており、それを支援するための新しい教育環境の整備に期待が高まっている。

④ さぬき市全体の配置のバランスと地域振興

ア 市全体としての学校の適正な配置や校区の範囲について、地域のバランスを考慮しながら、より広域的な視点から柔軟に検討する必要がある。

イ さぬき市の行財政改革の基本方針や具体的方策を示したさぬき市行政改革大綱及び実施計画では、小・中学校の規模の適正化や通学区域の見直し、幼稚園の整理統合を図ることが盛り込まれている。

ウ 合併後の新しいまちづくりが進められている現在、将来を展望し、次代を担う子どもたちが個性豊かにたくましく育つことができるよう、長期的な視点に立ち、時期を失することなく、確固たる教育基盤づくりに力を注ぐ必要がある。

(3) 計画策定に当たっての基本的な考え方

この計画策定に当たっては、特に次の観点に基づくものとする。

- ① 学校規模の適正化は、児童等にとって望ましい学習集団を形成し、より良い学習環境を創造するものであること。
- ② 計画内容は、地域の中での学校の役割や通学距離、通学路の安全確保に十分配慮し、保護者、地域住民の理解と協力を得られるものであること。
- ③ 施設整備に当たっては、防災上の安全性に配慮し、国際化・情報化な

どこれからの時代に対応した新しい教育に対応できるものとする。

- ④ 計画の対象は、公立小・中学校及び幼稚園とすること。

2 学校の適正規模の検討

- ① 法令の規定

学校規模の法令上の規定については、学校教育法施行規則第17条及び義務教育諸学校施設費国庫負担法施行令第3条において適正な学校規模の条件として「小学校の学級数は12学級以上18学級以下を標準とする（同規則第55条により中学校についてもこの規定を準用）」と規定されている。

各学年の学級数からすると、小学校では各学年2学級から3学級、中学校では4学級から6学級となる。

- ② 学校規模による学校教育への影響

学校の小規模化あるいは大規模化は、学校教育に大きな影響を及ぼし、教育指導や学校運営において問題や課題が生じることがある。

教育指導や学校運営面での問題や課題は、基本的に児童・生徒数に起因するところが多く、小規模化が進行した場合には、それら諸問題を克服することが困難になり、児童・生徒や教職員、保護者、地域などのニーズに応じた特色ある学校づくりにも支障をきたすことになる。

- ③ 学校の小規模化による影響

指導面

ア 学習形態の硬直化

- ・ 児童・生徒の学力の実態に応じた効果的な学習形態を弾力的に取り入れることが難しい。
- ・ 多様な見方、考え方に触れながら学習を進めることが難しい。
- ・ 体育や音楽等で行う集団競技や演技、演奏活動等が制限される。

イ 多面的な指導や評価の制限

- ・ 様々な個性や専門性をもった教職員との出会いや指導を受ける機会が制限される。
- ・ 児童・生徒に関わる教職員数が少なく、教職員間での情報交換や多面的な評価が難しい。

ウ 人間関係の固定化

- ・ 学級や学習グループの再編成ができず、一度できた人間関係が固定化されやすい。したがって、一度人間関係等に問題が生じた場合は、それが長期化・深刻化する傾向があり、自己実現が困難な状況が生じやすい。
- ・ 教師との距離が比較的近くにあるため、課題や問題に直面することが少なく、自己改革の意欲や必要性を感じる機会が少なくなりやすい。
- ・ 進学や転校等により大きな集団に入った際に、他者理解や自己実現にとまどいを感じ、好ましい人間関係や学習環境を保てないことがある。

運営面

ア 児童・生徒の学習や部活動等における選択幅の制限

- ・ 配置される教職員が少なく、選択履修の幅が限定される。
- ・ 部（クラブ）活動指導における専門的な知識や技能を有する教職員が限られるとともに、部（クラブ）活動数も限られ、児童・生徒や保護者の要望に応じることが困難となる。
- ・ 小学校における専科教員及び中学校におけるすべての教科の専門教員が配置されない可能性が高くなり、確かな学力を培うための指導体制の整備が困難となる。

イ 教職員の資質向上を図る機会の減少

- ・ 同学年や同一教科教員が少なく、複数教員による教材研究や教科指導等についての校内研修が難しい。
- ・ 校務分掌等において一人の教職員が受け持つ分掌が多くなる。

ウ 学校行事等の制限

- ・ 運動会や学習発表会など、ある程度大きな集団による活動や学校行事等が制約される。
- ・ 学校外活動やPTA活動等における保護者の負担が大きくなりやすいため、活動が制限されることがある。

④ さぬき市における学校の適正規模

- ・ 小学校は、法令面やクラス替えが可能である**1学年2～3学級**を適正規模とする。

- ・ 中学校では、クラス替えが可能で集団競技の実施など望ましい教育活動を円滑に行うことが確保できる **1 学年 3 ～ 6 学級**を適正規模とする。

さぬき市の適正な学校規模

小学校： 1 2 学級～ 1 8 学級（ 1 学年 2 学級～ 3 学級）

中学校： 9 学級～ 1 8 学級（ 1 学年 3 学級～ 6 学級）

⑤ さぬき市の学校規模の現状

現在のさぬき市の小・中学校を規模別に分類すると、多くの学校が小規模校または過小規模校であり、適正規模校は、小学校 1 5 校のうち 2 校、中学校 6 校のうち 2 校である。

小学校の規模の現状

区 分	校数	学 校 名			
過小規模校	4	小田小学校	前山小学校	多和小学校	末分校
小規模校	8	津田小学校	鶴羽小学校	富田小学校	松尾小学校
		鴨部小学校	神前小学校	石田小学校	造田小学校
適正規模校	2	中央小学校	長尾小学校		
大規模校	1	志度小学校			

中学校の規模の現状

区 分	校数	学 校 名			
過小規模校	0				
小規模校	4	津田中学校	大川第一中学校	志度東中学校	天王中学校
適正規模校	2	長尾中学校	志度中学校		
大規模校	0				

3 学校施設の現状と課題

① 学校施設の現状

さぬき市内の学校施設は、第1次ベビーブームの影響による児童・生徒数の急増と全国的に進められた非木造校舎への増改築により、小学校では昭和30年代から40年代にかけて、中学校では昭和40年代から50年代にかけて急速に整備が進められたため、現在では、多くの校舎が老朽化している。

② 耐震化の状況

学校は、多くの児童・生徒が一日の大半を過ごす学習・生活等の場であると同時に地域住民の学習や交流の場として、また、災害時における地域住民の避難場所としても活用される施設である。このような機能をもつ学校は、子どもにとって安全で安心できる環境を確保することや災害時に十分対応できる構造耐力等を備えた施設であることが必要である。

しかし、さぬき市の学校施設は、新耐震基準以前の建物の棟数が全体の71.3%であり、大規模地震に対応できる施設整備（耐震補強等）が急がれる。

小・中学校、幼稚園施設の耐震改修状況

平成20年4月現在

区分	棟数	昭和56年以前の棟数	昭和56年以前の棟数の割合(%)	耐震診断実施棟数	昭和56年以前の棟で改修済の棟数	耐震化割合(%)
小学校	63	41	65.1	41	13	55.6
中学校	34	29	85.3	29	9	41.2
幼稚園	11	7	63.6	7	4	72.7
合計	108	77	71.3	77	26	52.8

4 再編計画策定の経過

平成 18 年 3 月	さぬき市学校再編計画(素案)を作成。
平成 18 年 8 月	さぬき市学校再編計画検討委員会を設置。 教育委員会から同検討委員会へさぬき市学校再編計画の検討を依頼。
平成 19 年 3 月	さぬき市学校再編計画検討委員会から報告を受ける。
平成 19 年 4 月	さぬき市学校再編計画(案)の策定及び公表。
平成 19 年 5 月	さぬき市学校再編計画(案)に対するパブリック・コメントの実施。
平成 19 年 6 月～7 月	市内 6ヶ所で住民説明会を開催し住民の意見を求める。
平成 19 年 10 月～ 平成 20 年 3 月	さぬき市学校再編計画(案)を基に中学校単位で保護者代表並びに 自治会代表で構成した「学校再編計画地域協議会」を設置し、 各地域の再編計画に対する要望や意見交換をした。(計 30 回開催) 同時に地域協議会の代表で構成した「さぬき市学校再編計画地域連絡 協議会」を設置した。(計 4 回開催)
平成 20 年 3 月	各地域協議会並びに地域連絡協議会の協議報告書を教育長が受理。

5 小中学校の再編実施計画

(1) 基本事項

- ① 小規模化の著しい学校については、早期に再編に着手する。
- ② 通学区域については、現行の通学区域を尊重し、特に小学校と中学校の通学区域の整合性を図る。
- ③ 通学方法については、次の点を勘案し調整する。
 - ・ 小学校は原則として徒歩通学とする。再編により、学校までの実距離が 2.5 km以上となった者については、通学支援（通学バス等）を行う。ただし、高学年（5・6年生）は通学環境等から判断し、自転車通学も考慮する。
 - ・ 中学校は原則として徒歩または自転車通学とする。ただし、6 km以上の遠距離者には通学支援を行う。

(2) 計画期間

計画期間は、平成 20 年度から平成 29 年度までの 10 年間とし、前期（5 年）、後期（5 年）に分ける。

	前 期 (平成 20 年～24 年)	後 期 (平成 25 年～29 年)
小学校	津田・鶴羽小学校の統合 志度小学校・末分校の統合 中央・小田・鴨部小学校の統合 長尾・多和小学校の統合	富田・松尾小学校の統合 石田・神前小学校の統合 長尾・前山・造田小学校の統合
中学校	大川第一・天王中学校の統合	津田・志度東中学校の統合

(3) 小学校の再編実施計画

小学校の再編計画は、14校1分校を6校に統合する。ただし、一部の学校については児童数の推移をみて、統合の時期を判断する。

① 津田小学校・鶴羽小学校の統合

津田小学校と鶴羽小学校は、平成22年4月に統合する。

学校名	20年度		22年度見込		25年度見込		29年度見込	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
津田小	230	8	218	8	163	6	125	6
鶴羽小	131	6	125	6	103	6	92	6
統合校	361	12	343	12	266	9	217	6

② 富田小学校・松尾小学校の統合

富田小学校と松尾小学校は、大川第一中学校跡地を利用し、施設整備後に統合する。

学校名	20年度		22年度見込		25年度見込		29年度見込	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
富田小	244	8	223	6	207	6	196	6
松尾小	79	6	69	6	57	6	70	6
統合校	323	12	292	12	264	11	266	11

③ 志度小学校・末分校の統合

末分校は本校（志度小学校）に平成21年4月に統合する。

学校名	20年度		22年度見込		25年度見込		29年度見込	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
志度小	692	20	741	22	691	20	579	18
末分校	14	2	5	1	4	1	6	2
統合校	706	21	746	22	695	20	585	18

④ 中央小学校・小田小学校・鴨部小学校の統合

小田小学校と鴨部小学校は、早期に中央小学校と統合する。

学校名	20 年度		22 年度見込		25 年度見込		29 年度見込	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
中央小	292	12	244	10	196	8	160	6
小田小	23	5	34	4	34	4	30	4
鴨部小	100	6	93	6	72	6	72	6
統合校	415	12	371	12	302	11	262	11

⑤ 石田小学校・神前小学校の統合

石田小学校と神前小学校は、当分の間、現状を維持し、今後の児童数の推移を勘案しながら統合の時期を検討する。

学校名	20 年度		22 年度見込		25 年度見込		29 年度見込	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
石田小	234	8	234	8	206	7	168	6
神前小	125	6	122	6	101	6	75	6
統合校	359	12	356	12	307	11	243	10

⑥ 長尾小学校・前山小学校・多和小学校・造田小学校の統合

- ・ 多和小学校は、早期に長尾小学校と統合する。
- ・ 前山小学校は、平成 16 年度から小規模特別認可校（特認校）制度を導入しているので、今後の児童数の推移や特認校制への応募状況等を勘案し、統合の時期を検討する。
- ・ 造田小学校は、当分の間、現状を維持し、今後の児童数の推移を勘案しながら長尾小学校との統合の時期を検討する。

学校名	20 年度		22 年度見込		25 年度見込		29 年度見込	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
長尾小	440	13	472	14	465	13	430	12
造田小	250	9	239	10	213	8	169	6
前山小	16	4	21	4	20	3	12	3
多和小	16	5	10	3	6	2	16	3
統合校	722	22	742	23	704	21	627	18

* 学級数については標準学級数を表示。

(4) 中学校の再編実施計画

学校規模の適正化を図るため中学校の再編計画は、6校を4校とする。

① 大川第一中学校・天王中学校の統合

大川第一中学校と天王中学校は、早期に新たな場所に校地を確保し、統合する。

学校名	20 年度		24 年度見込		26 年度見込		29 年度見込	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
大川一中	167	6	161	6	145	6	139	6
天王中	133	6	177	6	179	6	168	6
統合校	300	9	338	9	324	10	307	9

② 津田中学校・志度東中学校の統合

津田中学校と志度東中学校は、新たな場所に校地を確保し、統合する。

学校名	20 年度		24 年度見込		26 年度見込		29 年度見込	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
津田中	176	6	178	6	179	6	139	5
志度東中	218	7	208	6	199	6	155	6
統合校	394	11	386	12	378	12	294	9

③ 志度中学校

志度中学校は、現在の校区を存続する。

学校名	20 年度		24 年度見込		26 年度見込		29 年度見込	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
志度中	344	10	371	11	359	11	388	11

④ 長尾中学校

長尾中学校は、現在の校区を存続する。

学校名	20 年度		24 年度見込		26 年度見込		29 年度見込	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
長尾中	350	11	371	11	376	12	367	11

6 幼稚園再編の方向性について

①幼稚園の再編概要

幼稚園は、1学年最低2クラスが確保できることを基本に考える。

通園距離・全体のバランス・将来の見通しから検討し、市内全体の12園・1分園を6園に統合する。(前山幼稚園・末分園は休園中)

津田幼稚園・鶴羽幼稚園は、当分の間、現状を維持する。

富田幼稚園・松尾幼稚園は、富田小学校・松尾小学校の統合場所と同一敷地内に建設し、小学校と一体型の教育を目指す。

志度幼稚園末分園は、現在休園中であり、今後再園が見込めないため、平成21年3月に廃園とする。

鴨部幼稚園・小田幼稚園は、中央幼稚園との統合の時期を早期に検討する。

長尾幼稚園・造田幼稚園は、園児数の推移を勘案し統合の時期を検討する。

前山幼稚園は、前山小学校の統合時期に合わせ、廃園を検討する。

②幼稚園再編の方向性

最終的には、各幼稚園を以下のように再編する計画であるが、今後次世代育成支援行動計画の進捗状況や、他の子育て支援施策の状況等を勘案しながら、運営形態の在り方を含め判断する。

- ・ 津田幼稚園・鶴羽幼稚園の2園を統合する。
- ・ 富田幼稚園・松尾幼稚園の2園を統合する。
- ・ 志度幼稚園は、現状を維持し、運営する。
- ・ 中央幼稚園・鴨部幼稚園・小田幼稚園の3園を統合する。
- ・ 寒川幼稚園は、現状を維持し、運営する。
- ・ 長尾幼稚園・造田幼稚園・前山幼稚園の3園を統合する。

園児数・学級数の推移

平成 20 年 5 月 1 日現在

	19 年度		20 年度		21 年度見込		22 年度見込		23 年度見込	
	園児数	学級数	園児数	学級数	園児数	学級数	園児数	学級数	園児数	学級数
津田幼稚園	73	4	64	4	54	3	44	3	40	3
鶴羽幼稚園	46	3	43	3	35	3	33	3	39	3
富田幼稚園	63	3	71	4	72	4	60	4	58	4
松尾幼稚園	26	3	27	2	26	2	27	2	31	2
志度幼稚園	179	8	195	10	187	8	173	7	148	6
中央幼稚園	66	4	56	3	51	3	50	4	43	4
鴨部幼稚園	30	3	16	2	13	2	14	2	13	2
小田幼稚園	12	3	11	2	13	2	8	2	11	2
寒川幼稚園	112	6	111	6	105	5	96	5	80	4
長尾幼稚園	114	5	117	6	117	6	111	6	106	6
造田幼稚園	66	3	73	5	66	3	59	3	51	3

*前山幼稚園・志度幼稚園末分園は休園中

さぬき市教育委員会事務局 学校再編対策室
〒769-2492

さぬき市津田町津田 138 番地 15

TEL (0879) 42-3035 FAX (0879) 42-3208

e-mail gakkosaihen@city.sanuki.lg.jp